

# 長

崎大学の文教キャンパス工学部ビロティ前に、ひとときわ目立つオレンジ色の乗用車。これは、実はカーシェアリング用の車で、学生用と職員用の二台が運用されています。カーシェアリングとは、登録会員同士で特定の車を共有し、好きな時に使用すること。ここ数年注目され始めました。

このシステムを生かし、二〇二〇年六月から、トヨタ車のディーラーである長崎トヨペット株式会社と情報データ科学部の共同研究がスタートしました。全体を統括するのは全柄徳教授。ビッグデータ解析を専門とする一藤裕准教授と神山剛准教授も加わり、一連のプロジェクトが進んでいきます。三人の先生方に聞きました。

全先生「そもその背景として、若者の車離れがあります。ひと昔前は大学を卒業したらまず買うのが車でしたが、都市では若い世代を中心にカーシェアが人気のようです。そこで、県内のトヨタの販売店が主体となって大学に車を貸し出してカーシェアリングを行い、データを取って若者の車の使い方や動向を見たいという提案を受け、共同研究が始まりました」。

プロジェクトの中で、情報データ科学部はどのように関わっていくのでしょうか。一藤先生「使用される車のデータについてはトヨタ自動車管理し、長崎トヨペットを通じて我々に送られてきます。今のところ、どこで急ブレーキや急発進が行われたかというデータが集まっていますが、学生の場合、免許取り立ての初心者ドライバーが多いのです。すると急ブレーキのタ

変化から、ストレスを感じている時やイライラした時に匂いの兆候があるのではないかと。今後、計測することで面白いデータが取れるかもしれません」。

長崎トヨペットの溝口昌喜常務にもお話を伺いました。「トヨタ自動車とトヨタ販売店は車を使った新しいアイデアやサービスの可能性が考えられないかと数年前から試行錯誤をしています。その一つがこのプロジェクトなのですが、全国では群馬大学に続いて長崎での研究が二番目の事例です。長崎大学に二台、長崎総合科学大学と長崎県立大学シーボルト校に一台ずつ置いており、各大学で研究のアプローチが違うと聞いています。特に長崎大学の学生専用車の稼働率は高く、学生らしい発想でさまざまな研究に役立てていただきたいと思います。今後は学生とのコラボレーションも考えられます。さらに共同研究期間を延長できるように、いろいろなアイデアが出てきたらいいですね」。

長崎大学の学生シェアリングカーの稼働率は四十パーセントとかなり高く、ちょっとしたドライブや、ゴルフ、中には実家への帰省に使った学生も。大学のインフラとしても有効ですが、この車が今後のデータ研究に生かせるならば、さらに興味をそそります。

「広い意味での実験環境。言ってみれば、実験室が一つ増えたようなものです」という先生方の言葉に、期待が膨らみます。

※データに関わる個人情報取り扱いには充分配慮しています。

イミングは何なのか。標識を見落としがちというパターンである場合、標識を設置する位置の見直しの検討などにつながる提案もできるかもしれません。これらのデータを地図に落とし込む作業は学生にとってデータを扱う初歩的な勉強になります。また、大学側で独自にいろいろな機器を車に搭載してデータを集めることも計画しています」。

が考えられますよ。学生の生活行動パターン、趣味や趣向、どんな店を好むのか。そこから得られるデータは貴重で応用が利きます。この車を使って何かテーマを決めてデータを集め、解析してみようと学生に呼びかけると、手を挙げる学生も出てきました。車という空間を使って、人間の状態を探求する研究を行うこともできるでしょう」。



日常的にこの車を使用する工学部情報工学コース4年生の樋口聡一郎さん。「ぜひもう1台学生用に検討していただきたいですね。今度はRV車がいいな」。



左から全先生、神山先生、一藤先生。「車は閉鎖されたプライベート空間で、いろいろなセンサーを積むことができます。学生には、想像力を膨らませてさまざまな研究に生かしてほしいですね」。

# 始まったカーシェアリングのプロジェクト 車は新しい実験室

Topics  
Nagasaki University

学生が車をシェアして使うことができるだけじゃない。そこにさまざまな機器を搭載することでデータを計測し、車と人間をめぐるさまざまな研究が可能になりました。さて、どんなアイデアが登場するのか？



急加速と急減速が行われた場所を落とし込んだ地図。